

しまなみスローサイクリングリーダーズスクール  
開講の意見交換会

日 時：平成20年4月19日（土）19：00～21：00  
場 所：サンライズ糸山 会議室  
講 師：吉澤寿康氏（「阿蘇ライダーハウス」管理人）  
宇都宮一成氏（サイクリスト）  
参 加 者：37名（事務局を含む）



昨年度の取組（モニターツアー・WEBアンケート実施によるマーケット分析）をいかし、しまなみらしい観光スタイル「しまなみスローサイクリング」の確立を目指す学習の場（リーダーズスクール）を開講しました。今後、メンバーのアイデアを形にしていく社会実験、実証実験などを行うための予算獲得として、「地方の元気再生事業（内閣府）」への応募を投げかけ、応募主体、応募事業内容について、意見交換を進めました。

参加者からは「サイクリストと地元の人とのコミュニケーションが不足していることが課題。」「島の香りのする食材で手軽なお弁当をつくっては」など、様々な視点からの課題やアイデアが出されました。たくさんの方が一つの目標に向かって、建設的な意見を活発に交換する様子に、これまで積み上げてきたものが形になるうとする可能性を感じました。

（決定事項）

しまなみスローサイクリング協議会を設立する。

→本日、自発的に手を挙げたメンバーが幹事会員。会則を整え、設立総会を開く。

しまなみスローサイクリング協議会で、内閣府事業への応募を目指す。

1. 地方の元気再生事業への応募

（2007年度事業）

- 島民主体による自転車による観光・交流による地域振興の取組み  
島のリズムに合致したブランドイメージ「ゆるり」を形成、ツアーを造成。  
住民自らが見聞きした情報に、取材者の思いを込めて情報発信
- しまなみらしい観光スタイルとして「しまなみスローサイクリング」提唱  
都市住民のニーズと地元のシーズをつなぐ「スローサイクリング」の検証。  
（モニターツアー・WEBアンケート実施）

（2008年度事業）

- 財団法人トヨタ財団助成事業（確定・着手）  
専門家を招いた学習の場（リーダーズスクール）を開講。  
資源探し、ホスピタリティ向上のスキル獲得。
- 地方の元気再生事業への応募  
サイクリングによる観光・交流の推進に関心のある組織・個人で構成する協議会設立。  
メンバーのアイデアを生かした新たなサービス提供、しくみの実証実験。  
地域にスローサイクリングを伝えるシンポジウムの開催。

## 2. しまなみスローサイクリング協議会

- ①新組織設立の意味：一般の旅行者とは違う目的意識を持ったサイクリストを迎え入れる準備  
来訪者のもてなし(ホスピタリティ向上)  
+呼び込む(資源発掘・商品開発・情報発信) 両面を担う組織

### (事例) つばさプロジェクト

地元にとっては何気ないものをアレンジ。都市住民の方が楽しむことができる日帰りツアー。

- \*旅行社の安全確保
- \*移動中のガイド(統一感)
- \*資源の魅せ方(演出)

- ②新組織の担い手：一般会員…イベント(ワークショップ)への主体的参画  
幹事会員…イベント(ワークショップ)の準備、まとめの作業  
事務局…進捗管理、受け入れ体制整備の検討進行管理  
顧問…側面支援、受入体制整備への助言・指導

- ③新組織の事業内容：コンセプト設計…資源発掘・メッセージ伝達  
広報ツール…写真撮影・イラスト、チラシ、ポスターへのアレンジ  
付加価値向上…「売れる」商品にしていくために
- ・ガイド養成(安全確保、エンターテインメント性)
  - ・自転車環境整備(パンク対応、拠点整備)
  - ・食、土産開発(GTと自転車のマッチング)

- ④その他：幹事会員に交通費を支給(例外あり)  
地元の対談など、生の声を伝える「しまなみスローサイクリング」のガイド本出版を  
事業の一環として提案

### ※広島県との連携は？(質問)

今年度は今治市エリアに専念。広島県側でもいかしてもらえるしくみづくり。

### 3. グループによる意見交換

求められる事業内容を事務局原案として示し、参加者自らが、興味・関心やいかせるスキルを勘案して分かれた5つのグループで進めました。

協議会設立には全グループから合意をいただくと共に、分野ごとに多様な意見をいただきました。

	意見	幹事会員
コンセプト設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来と違う組み立てによるスタンプラリー</li> <li>・これから生まれるプランも含めた情報発信</li> <li>・フットワークをいかした取り組み</li> </ul>	
広報ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車で通ることができる橋、景色、人情溢れる人が魅力</li> <li>・現地に来てもらうための情報と現地で必要な情報、2つの発信が必要</li> <li>・拠点施設が島に欲しい</li> <li>・イラストや写真のスキルを持った島の人材をいかす取り組み</li> </ul>	
付加価値向上 ガイド養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリストと地元の人とのコミュニケーションが不足していることが課題。サイクリングをしていて声をかけるきっかけがない。 →コミュニケーションがとれる工夫（ガイドはヘルメット！） →既存のターミナル、切符売り場に情報を伝え、これまで以上のホスピタリティを加味した案内の実現 →自転車と一緒に乗りながらできるガイド養成</li> <li>・ガイド内容を細分化し、様々なタイプのガイドを養成</li> <li>・3島連携のコース設定がアレンジできる人の育成 →有料のパックツアー（ガイドを盛り込む）</li> <li>・地元の学生の参画</li> </ul>	
付加価値向上 自転車環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会が行うサービスのメインターゲットをどこにおくかで変わる。 →自転車に本格的に乗り始めて1，2年のサイクリスト？ しまなみらしさを伝えるのはファミリーがいい？ 行政サービスではできない部分を担うべき？</li> <li>・自転車のメンテナンスなどを考えていく →アレもコレもということになると問題がおこる。どこで線をひくか。</li> </ul>	
付加価値向上 食、土産開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイクリストが求める食とは 顔が見える人がつくったもの しまなみらしいオンリーワンのもの（島の香り） ex 海草をパンに 今あるものにプラスアルファしたもの</li> <li>・持ち運びやすい携帯タイプ、手でつまめるもの</li> <li>・包装に工夫（ジュースなども小さなタイプの個装）</li> </ul>	



しまなみスローサイクリングリーダーズスクール  
人の魅力が人を呼ぶ力へ

日 時：平成20年4月20日（日）9：30～17：00

場 所：下田水レンタサイクルターミナル

（今治市砂場町2丁目8番1）

今治市吉海開発総合センター

（今治市吉海町福田 1290）

大島島内

今治市村上水軍博物館

（今治市宮窪町宮窪 3543 番地）

講 師：吉澤寿康氏（「阿蘇ライダーハウス」管理人）

宇都宮一成氏（サイクリスト）

参 加 者：29名（事務局を含む）



「人の魅力が人を呼ぶ力へ」をテーマに第1回リーダーズスクールを開講しました。実際に大島自転車モデルコースを走行。印象に残ったところや、足りないと思ったところを意見交換し、事業展開に反映するアイデアを交換しました。山頂を制覇した際に感じる達成感が魅力との意見には、フィットネス効果を前面に出したツアーアレンジ、道に迷うと温かく丁寧に教えてくれる島の人との触れ合いが魅力との意見には、情報を出し過ぎずあえて迷ってもらうしかけなど、魅力をいかしたサービス展開を議論しました。

外部協力者として、福山市から阿蘇へ移住し、まちおこしを実践している吉澤氏からは、「資源探しは外の人意見をいかすことが大事。ライダーハウスは情報収集の場。」と、外の人意見を地元へ伝え、いかしていく必要性を伝えました。今後、開発を目指す食、土産、ツアー造成などについては、外の意見（ニーズ）を意識してプロデュースしていきたいと感じました。10年半かけて世界88カ国を自転車旅行した宇都宮氏は、「自分達の食べているものを一緒に食べようと誘ってくれるなど、ありのままの姿で受け入れてくれる人たちにぬくもりを感じた」と言います。長きに渡って旅を続けた人の説得力ある言葉です。今後、人のつながりづくりを事業の基本にすすめていきたいと改めて思いました。

## 1. まちづくりの講演会（吉澤寿康氏）

### ①阿蘇・内牧温泉街に移住したのは

通過するつもりだった阿蘇・内牧の人

「よかところあるよ～」がきっかけ。

・ガイドマップにない資源を知り、10日滞在。

### ②阿蘇ライダーハウスの運営

1700万人が3分で通り過ぎていく

・・・もったいない！

来る人に喜んでもらうために、

手づくり散策マップ作成。

→歩いて楽しむことができるまち。

受付で20分紹介！

→ライダーハウス宿泊者の連泊（1000人/年）、リピーター率（4.7割）の向上。

広告宣伝費ゼロ円！年間2500名の利用者は口コミ宣伝隊





### ③地元を巻き込んでいく“ソフト”と“ハード”

地元の皆さんができることから始める・・・個人レベルの取り組みは自己満足  
定例会でコミュニケーションを深め、企画を生み出す

#### (ソフト)「うちのまき案内人」

- ・案内人は一般公募 (内牧が好きな人)
- ・「2時間ください！」  
観光客が楽しめるよう「食べ歩きツアー」 街の歴史文化はCM メインは世間話  
「何かよかったか分からないけど、よかった～」との感想。リピーターにつながる。
- ・今ある地元素材を活かす紹介

#### (ハード)「Tomaっとベリーな街」

- ・街全体をテーマパークにみたてた一体的な取り組み  
参加店に手づくり看板。入りにくさの敷居を下げる。  
特産品を使った1店1品。
- ・ゲーム券で街を周遊  
観光客と店主(地元の人)の会話のきっかけ  
お店を周遊することで滞在時間延長、リピーター獲得  
紹介店をデータで見せて、地元同士(店・宿・地域)の交流促進



## 2. サイクリングの楽しさ (宇都宮一成氏)

10年半・88カ国(5大陸)・10万5千kmの旅を終えて  
自転車経験のない妻との旅をする上で最適なアイテムが「タンデム自転車」

#### (自転車の旅の危険)

- ・盗難、強盗
- ・交通事故(自衛の方法がない)
- ・タンデム自転車の重量は200kg。かなり疲れる。
- ・気候のいい時だけじゃない(風、雨、雪、暑さ)
- ・差別(黄色人種への蔑視)

#### (自転車の旅の魅力)

##### ●風景

ヒマラヤ山脈、パキスタン自転車道など、心に残る景色の数々

##### ●おいしいご飯

メキシコのタコス、タイのご飯

・・・「今日は何を食べよう？」と考えながら走る楽しさ

##### ●思いやりに人たちの出会い

トルコ：遠来の客を神の客としてもてなすホスピタリティ

\*ありのまま受け入れてくれる

##### ●子どもとのふれあい

写真が大好きな子ども達。子どもの笑顔がよかった国が印象的。



2006年 10月 中国

### 3. 大島内サイクリング

島民の思いをつないだ地元が薦めるコースを検証する目的で走行しました。各主要スポットにて、コースに組み込んだ趣旨の説明、見所の解説を行いました。

(チェックポイント)

- ・コースが来訪者にとってよいものかどうか？
- ・地元の思いが伝わるものになっているかどうか？



### 4. 意見交換

意見	アイデア
<p>(印象に残ったところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・風 カレイ山に登りきった時の爽快感は、達成感がプラスされて感動的。</li> <li>・海、空、島、緑 「能島の里」は象徴的。 島の雰囲気満喫できた。</li> <li>・民、人の温かさ 出会った人が皆、親切。 地元の人々のパワーを感じた（主体者）。</li> <li>・島時間 ぴりぴりしていないのんびりムードを満喫。</li> </ul> <p>(足りなかったところ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当は工夫が欲しい。</li> <li>・一人では今日のようなコースは巡れない。</li> <li>・現地の看板が少ない。 地元のいいところのアピールが足りない。 トイレの案内がない。 広島県側から入込の情報が少ない。</li> <li>・観光客を呼び込む情報がない。</li> <li>・トラブル対応できるシステムがない。</li> <li>・道が悪い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エクササイズ、フィットネスを主目的としたツアー造成。ガイド動向で励ましながらの登頂。</li> <li>・マップ情報は最小限。 迷うことで、島の人とコミュニケーション促進。</li> <li>・スポットごとのガイド養成。</li> <li>・<u>大人の空間づくり</u>。 見近島のようなプライベート空間。 昼寝ができるスペース</li> <li>・旅人のイラストサービス</li> <li>・米のおいしさが大切</li> <li>・小さいサイズ、つまんで食べられるスタイルなど、自分が好きな場所で気軽に食べることができるお弁当の開発</li> <li>・動向ガイドの養成</li> <li>・大島石を素材に看板設置。</li> <li>・情報をバーコード化し、携帯で検索できるしくみ。</li> <li>・写真撮影会、写生会など、呼び込むテーマの視点転換</li> </ul>